

4. 渡島東沿岸域の概況

4-1 気象・海象の概況

内浦湾に面した渡島東沿岸は積雪寒冷の厳しい北海道にあって、比較的温暖で暮らしやすい地域となっています。冬期は津軽暖流の影響を受けて気候が温和で、積雪期間が道内で最も短く、北西季節風が渡島山地によって遮られるため、降雪も日本海側に比べると極めて少なくなっています。そうした気候を生かし、伊達近郊では道内の促成野菜の一大生産地としての地位を占めています。

沿岸の海流・潮流は湾内ということもあり、流向・流速ともに不定で緩慢です。波浪は太平洋からの外洋波と湾内波が重ね合い発達します。冬期は北西季節風によって荒天の日が続きますが、日本海側に比較すると平穏な日が多くなっています。霧は、室蘭付近で春から夏にかけて、陸上での視程が1km以下となることがあります。室蘭以西の内浦湾での霧は少なくなっています。また、特に恵山沖は津軽海峡を東流してきた対馬海流(暖流)と太平洋岸を南下する千島海流(寒流)とが合流する場所で、豊富な漁業資源に恵まれ「恵山魚田」として呼ばれる程です。

風浪の特徴としては、津軽海峡から襟裳岬の海域では南東風の「やませ」が吹き荒れます。風力は海峡内に比べ弱いですが、激しい雨や雪を伴い船舶の航行を困難にします。また、室蘭付近は日本海中部に低気圧が現れたとき東南東風が非常に強くなります。

4-2 地形・地質の概況

渡島東沿岸は、海底勾配が急で岩礁がつづく恵山岬から砂原町砂崎の区間と、海底勾配が緩やかな内浦湾海域の・砂原町砂崎から地球岬までの2つの区間に大きく分類できます。

恵山岬から南茅部町付近までは岩礁が入り組み、激しい海底地形となります。その沖合は海底勾配が急になり、水深20m以深では小礫～中礫・砂の分布域となります。鹿部町付近はやや凹凸のある海底地形となり、小礫～中礫が主に分布しています。これらの礫は主として1929年駒ヶ岳噴火の軽石です。砂原町付近は比較的平坦な海底地形となり、沿岸は中砂～粗砂、水深50m以深では泥の分布域となります。

一方、内浦湾(噴火湾)は平均海底勾配が1/100～1/200と緩やかで、海底のほとんどで泥が分布し、湾内西部の水深30～40m以浅では細砂が分布しており、水深が深いほど泥分(シルト・粘土)が多くなります。湾内北部の長万部町静狩から豊浦町にかけての沿岸では中砂や岩礁が分布しており、海底勾配は比較的急になります。有珠付近は入り江などの地形が見られ、複雑な海岸線となっています。伊達市から室蘭港にかけては平坦な海底地形となり、細砂や中砂、その沖合に泥が分布しています。渡島東沿岸の東端となる地球岬は入り組んだ岩礁地帯となり、水深40～50mまでは主に細砂が分布し、その沖合は泥の分布域となります。

4-3 海岸防護の概況

我が国は、台風の常襲地帯にあり、地震多発地帯で津波の来襲も多い厳しい地理的・自然条件下にあります。渡島東沿岸は、想定される地震震源が十勝沖、三陸沖、日本海沖など近接した位置に存在しています。また噴火湾沿岸のほとんどが砂浜海岸であり、その背後に接近して市街地が広がり、更に国道JRなど重要交通機関が集中する交通交差の要所となっています。そのため住民の津波に対する不安及び関心は非常に高いものがあります。また北海道としても交通の要所として最重要防護地域として位置づけ、関係機関の総合した取り組みが望まれています。

それに加え、津波・波浪の影響を減少させることが可能な自然防護施設である広い砂浜は、噴火湾のほぼ全域で侵食され、海岸線が著しく後退しています。この状況は、陸域に対して直接的な影響をもたらすものであることから、津波対策と共に侵食対策の抜本的な取り組みが必要となっています

当沿岸は、市街地や集落を間近にひかえていることから、多様化した利用に向けて環境や利用にも配慮した施策も合わせて取り組む事が望まれます。

また、平成12年の有珠山噴火に伴う交通アクセスの停滞を教訓とするとき、当沿岸には有珠山を含め三つの活火山が存在し、この状況は他の区域には見られない陸域環境と認識しておくべきものであると思われまます。



写真- 1 虻田海岸

4-4 海岸環境の概況

沿岸の地形は多様です。全道を代表する展望地地球岬周辺の海蝕崖にはじまり、有珠山を望むアルトリ岬～ベベシレト岬の岩石海岸・海蝕崖。静狩・礼文華の高質な火山岩により構成された複雑な地形をなす岩礁海岸と入り江。静狩港から長万部～八雲にかけては長万部川や国縫川そして遊楽部川が流入し良好で広々とした砂浜を形成しています。駒ヶ岳のすそ野に位置する砂原町砂崎では、潮の流れと砂の堆積によって造られた砂丘・砂嘴が見られます。ここから海域は太平洋となり駒ヶ岳山麓を巡り丘陵地が海に落ちるところに出来淵崎の海蝕崖が見られます。その先の恵山岬までは礫浜・岩礁・岩石海岸が続き、南茅部町の獅子鼻岬など変化に富んだ海蝕崖が大勢を占めています。

そうした変化に富んだ地域には、原始をとどめた礼文華海岸自然林や静狩カシワ林、また天然記念物の茅部の栗林、恵山の高山植物群、鳥類では地球岬の断崖周辺に生息する猛禽類のハヤブサなどの貴重な動植物が自然と共生しています。

支笏洞爺国立公園・駒ヶ岳国定公園・恵山道立自然公園の三つの公園とそこに活動する有珠山・駒ヶ岳・恵山は当沿岸域陸域を特徴付けています。



写真- 2
地球岬周辺 (室蘭市)



写真- 3
砂浜海岸 (長万部町)

4-5 海岸利用の概況

渡島東沿岸は、延長の45%に相当する約120kmが砂浜海岸であり噴火湾の静穏な海域と対馬暖流による温暖な気候と相まって良好な空間を保っている地域です。

噴火湾沿岸では内湾で穏やかな海域特性を利用して、ホタテ養殖や毛ガニなどの浅海漁業が盛んです。また渡島東部の恵山近海では、千島寒流と対馬暖流とがぶつかる海域にあるため漁業資源が豊かで沿岸漁業は高い水揚げ高を誇るなど、豊かな漁業資源に恵まれています。その一方で将来の漁業資源を維持するための「育てる漁業」の場として利用しています。

景観は、当沿岸の多様性と国立・国定・道立の三つの自然公園によって豊富な観光資源が確保され訪れる人々を魅了しています。

また、地形的特徴から海と背後の山々までが近く、山麓には多くの温泉が点在し、海での海水浴にはじまり、温泉・ハイキングと海から山までの連携したレジャーを楽しめる環境にあります。しかし、沿岸でのレジャーは、海水浴程度に留まっており、またその区域も偏る傾向にあります。今後は、多くの人々の多様なニーズに応える事も含め、新たなレジャーへの対応に配慮して取り組む必要があります。

温暖な気候を有効な恵みとして、道内外からオールシーズンの観光を意識した取り組みも望まれます。



写真-4 ホタテ漁 (八雲町)



写真-5 昆布漁 (函館市)



写真-6 銚子海岸 (函館市)